第４期

事業報告書

自　令和 2 年　（2020 年）　4　月　1　日
至　令和 3 年　（2021 年）　3　月 31　日

3.11 メモリアルネットワーク
共同代表　武田 真一
共同代表　藤間 千尋

＜要旨＞

3.11 メモリアルネットワークは、2017 年 11 月 17 日に発足し、「東日本大震災の経験を根底に据え、教訓の伝承に関わる個人・団体・拠点施設が地域や世代を超えてネットワークでつながり、過去に向き合い未来へ備える意識を全国、 世界と共有しながら、次のことに取り組む。 一、災害で命が失われない社会の実現に貢献する 二、被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会の実現に貢献する」を目的に、震災伝承、防災・減災活動の「連携、調整」「企画、評価」「人材育成」事業を実施してきた。

第 4 期は、引き続き、岩手 3 名・宮城 5 名・福島 2 名の理事体制下で、「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」助成による「東日本大震災被災 3 県における震災伝承ネットワークの基盤構築・連携促進事業」（継続 2 年目）を推進し、ネットワーク基盤構築、伝承団体等との連携促進と事業力向上に取り組んだ。

年度を通じて新型コロナウイルスの影響が大きく、中止を余儀なくされた行事もあったが、代わりに、広報冊子の制作・頒布、「3.11 伝承力アップ講座」「活動報告会」等のオンライン配信、また現地理事・会員の企画による初の「福島ネットワーク交流会」の実施など、コロナ禍でもできることを模索し、活動を継続した。

2021 年 3 月で東日本大震災から丸 10 年が経過したが、「10 年を節目にしない」のテーマでフォーラムを企画し（延期のため 5 月に開催）、将来にわたる伝承の必要性を発信した。

2020 年 4 月から、JT による 3.11 メモリアルネットワーク基金への分担金をもとにした団体助成プログラムが始動したほか、役員会の提案により、伝承団体の新型コロナウイルス対策を支援する緊急対策助成プログラムも実施された。

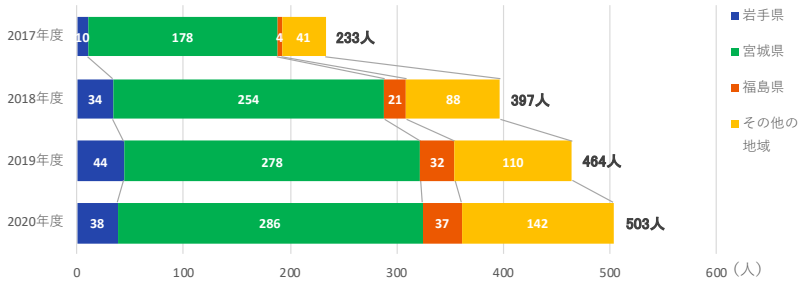
＜各事業の報告＞

Ⅰ　震災伝承、防災・減災活動の連携、調整

《会員》

・第 4 期は、新型コロナウイルスの影響で行事等の開催が困難となったことも影響し、会員数はあまり増加しなかった。2021 年 3 月末時点で個人会員 503 名（前年度から 39 名増加）、登録団体 70 団体（前年度から 6 団体増加）。

・地域別では、岩手県 38 名／10 団体、宮城県 286 名／45 団体、福島県 37 名／5 団体、その他の地域で 142 名／10 団体となった。名古屋や神戸、東京での発信機会があったことから、3 県以外の地域での新規入会が目立った。



3.11 メモリアルネットワーク
個人会員数（年度、地域別推移）

《全体会》

・第 4 期は、6 月 20 日（土）に石巻市で第 11 回全体会を開催した。新型コロナウイルスの影響により会場参加可能な人数が限られていたことから、オンラインも併用し、会員・アドバイザー26 名が参加して開催された。

・第 11 回全体会では、第 3 期事業報告・決算報告、規約変更、アドバイザー選任（これ以降、役員会での審議事項となる）について審議が行われた。また、第 4 期事業計画・収支予算、プロジェクト活動の推進と新ルール策定について報告された。

・前期に中止した第 3 回伝承シンポジウムで講演する予定だった兵庫県の諏訪清二氏にオンラインで登場いただき、神戸での現在の取り組みについてご報告・意見交換を行った。

・規約変更に伴い、次期以降、全会員で構成される会議は、不定期の「全体会」ではなく、年 1 回（毎年 6 月）「総会」として開催することになった。

第 11 回全体会 報告事項（2020/6/15）

諏訪氏のオンライン講話（2020/6/15）

《役員会》

・役員会は、毎月 1 回、計 12 回開催した。新型コロナウイルスの影響で、第 4 期はオンライン開催が多くなったが、ネットワークの事業内容やコロナ禍における対応等議論を深めた。

・役員会は、会員、アドバイザーもオンラインで傍聴可能とした。「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」で協働する認定特定非営利活動法人日本 NPO センターと日本たばこ産業株式会社（JT）の担当者には、毎回オブザーバー参加していただいた。

《アドバイザー》

・第 4 期には、各地の理事や会員の協力やこれまでの関係により、東松島市商工観光課・防災課、（岩手県の）東日本大震災津波伝承館、女川町、山元町教育委員会の 4 組織（5 部署）が新たにアドバイザーとして選任され、2021 年 3 月末時点で 13 組織となった。

・復興庁宮城復興局、宮城県震災復興・企画部震災復興推進課、石巻市、仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室、南三陸町、復興庁岩手復興局、東北大学災害科学国際研究所、いわき市市民協働部地域振興課、大槌町文化交流センターは前期から継続。

《メーリングリスト》

・会員、アドバイザーの間で連絡、情報共有を行うためのメーリングリストを設置、管理し、随時、双方向に情報を交換できるようにしており、今期は 108 件の利用があった。新型

コロナウイルスの影響で行事の開催が難しい時期であったが、38 件の告知活用があったほか、使い方が徐々に浸透し誤って全員宛に送信する事例はやや減少した。

・2020 年 4 月から、会員メーリングリストで「震災伝承メールマガジン」として、3 県を中心とした震災伝承関連のニュース記事、3.11 メモリアルネットワークの活動などの情報を定期的に届ける取り組みを開始し、2021 年 3 月までに 10 件配信した。

《WEB サイト》

・前期に整備した WEB サイトの活用を開始し、第 4 期は、告知ブログ 9 件、報告ブログ 4 件、会員インタビュー6 件を公開した。

・会員インタビューは、3 県順繰りに会員の方にご協力いただき記事を作成した。記事によっては 1,000 件以上のページビューがあり、多くの方に読んでもらうことができた。一方で、今期は「学ぶ」ページの記事は増やすことができなかった。

・株式会社ジュピターテレコムとの協働により、「未来へつなぐ 語り部の声」制作を進め、2021 年 3 月に第 1 弾・第 2 弾の映像が YouTube で公開され、3.11 メモリアルネットワークの WEB サイトにも掲載した。2021 年 3 月末までに第 1 弾は 26,000 回、第 2 弾は 12,000 回以上再生され、伝承の取り組みを多くの方に知っていただく機会となった。

「会員インタビュー」一覧 WEB ページ

J:COM 制作映像紹介 WEB ページ

3.11 メモリアルネットワーク WEB サイト 日別ページビュー数（2020/4-2021/3）

《河北新報データベース》

・2020 年 4 月から、会員の活動記録、整理、また情報収集に活用いただく目的で、新聞データベースの共用を開始し、管理・運用を行った。45 名／団体（重複申請除く）から利用申請があり、活用された。

Ⅱ　震災伝承、防災・減災活動の企画、評価

《プロジェクト》

・第 4 期は、新型コロナウイルスの影響もあり、会員有志が企画運営する行事は実施されなかったが、各プロジェクトで次年度以降に向けた打ち合わせが行われた。

《各県交流会》

・10 月 31 日（土）福島ネットワーク交流会を実施した。伝承関係者の県域の連携強化、新たな関わり創出を目的に今年度初めて行われた行事で、福島県の理事・会員が中心となり企画・運営された。福島、岩手、宮城、千葉から 15 名が参加し、午前に双葉町の「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学、午後は富岡町の蓬人館ホテルにて感染症対策をとりながら交流会が催された。コロナ禍の中でも伝承に取り組む関係者同士で新たなつながりが生まれる貴重な機会となった。【JT NPO 応援プロジェクト】

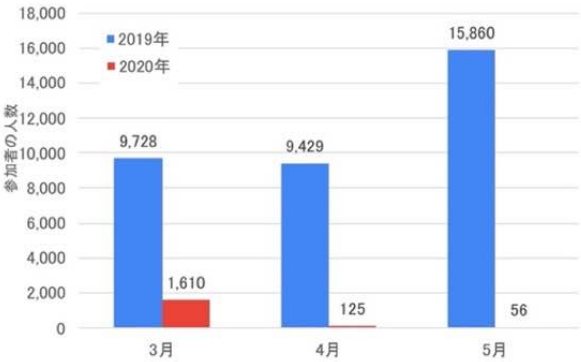
東日本大震災・原子力災害伝承館見学（2020/10/31）

交流・意見交換会（2020/10/31）

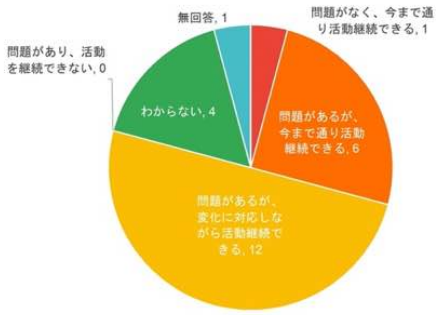
《アンケート》

・2020 年 3-4 月、5-6 月の 2 回「新型コロナウイルスの震災伝承活動への影響に関する緊急アンケート」を実施、岩手・宮城・福島で震災伝承に取り組む方々（第 1 回：30 団体・個人、第 2 回：24 団体・個人）にご協力いただいた。特に春は来訪者の減少が著しく、2019 年 3～5 月 35,017 名であったところ、2020 年の同期間は 94.9%減の 1,791 名ととなっており、厳しい状況が数字として明らかになるとともに、伝承関係者が感じている「語り部を継続しないことによる、『伝承』そのものの文化の醸造ができないことが心配」「このままでは活動の存続が難しくなるかもしれない」といった不安や、感染対策の実施状況、助成制度利用状況等について把握することができた。

・アンケート集計結果は、WEB サイトに掲載するとともにプレスリリースを行った。2020 年 4 月以降、これに関するメディアの取材希望も増加し、全国の新聞記事やニュース映像で繰り返し引用され、広く現状を発信することができた。



2019／20 年 3～5 月の語り部講話等参加者数（24 団体／個人の合計）



伝承活動の継続見通し

・「2020 年度震災伝承活動調査」の実施に協力し、2020 年 12 月までの各団体、施設の受入数推移や現状認識について調査を行い、3 月に速報版を公開した。

《広報物の制作・頒布》

・新型コロナの影響で移動や行事開催が難しい中でもできることとして 6 月役員会で新たに広報冊子（2 種類）を制作した。広報担当理事を筆頭に、9 月までに 20 ページの冊子・4 ページのパンフレットの中身の企画・調整・依頼・制作作業を行い、10 月に各 3,000 部印刷、11 月から各種行事参加者や寄付者へ頒布を行った。併せて、3.11 メモリアルネットワーク基金への寄付振り込み用紙付きチラシも制作した。【JT NPO 応援プロジェクト】

3.11 メモリアルネットワーク紹介・基金寄付募集冊子

同チラシ

《活動発信機会》

・11 月 15 日（日）に名古屋市公会堂で行われた「防災人材交流シンポジウム（つなぎ舎）」に参加し、名古屋大学・中日新聞・CBC 等の関わる現地の連携枠組みと共催で実施したシンポジウムにおいて、岩手・宮城・福島各県で語り部を行う会員 3 名とともに活動発表を行った。当日は感染症対策を施した会場に 60 名ほどの参加者で実施されたが、YouTube でアーカイブされたシンポジウムの動画は合計 1,000 回以上再生され、広く発信することができた。【JT NPO 応援プロジェクト】

・シンポジウムをきっかけに、名古屋の関係者と今後の継続的な関わりが必要であることを相互に確認し合い、約 20 名が新規入会した。2021 年 2 月 22 日の清流の国ぎふ防災・減災センター「げんさい楽座」オンライン登壇にもつながった。災害で命が失われない社会の実現に向けて、南海トラフ地震が心配される地域との連携を深めることができた。

・当初予定していた東京・大阪・仙台での活動報告会の現地開催が難しい状況となったことから、12 月 8 日（火）仙台市の配信会場よりオンラインで報告会を実施した。岩手・宮城・福島の理事が出演し「震災から 10 年　伝承活動を支える力」「震災から 10 年　被災地視察学習の可能性」の 2 テーマで報告、日本 NPO センターの広報協力により、企業 CSR 担当者など 32 名が参加した。【JT NPO 応援プロジェクト】

つなぎ舎シンポジウム（2020/11/15）

オンライン活動報告会（2020/12/8）

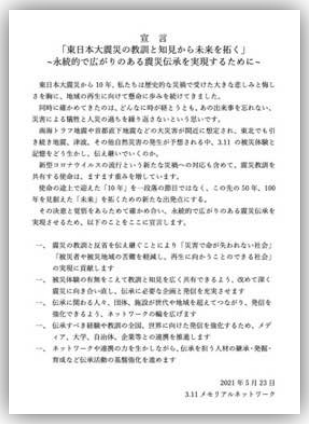
《フォーラム》

・各地で伝承・防災に取り組む個人、団体が互いに学び合い、発災 10 年以降の継続と連携の意思を共有する目的で、2021 年 3 月 21 日（日）震災フォーラム「10 年を節目にしない ここから始まる伝承のみらい」開催に向けて、関係機関、ステージ実演や分科会登壇者らと調整を進めた。【JT NPO 応援プロジェクト】

・フォーラムに先立ち、宣言「東日本大震災の教訓と知見から未来を拓く」~永続的で広がりのある震災伝承を実現するために~の案を作成、会員に意見募集し、内容を整理した。

・3 月中旬頃から宮城県において新型コロナウイルス感染が急拡大したことから、共催の東北大大学災害科学技術研究所と協議の上で延期を決定し、開催は 4 月以降に持ち越しとなった。

震災 10 年フォーラムチラシ


宣 言
「東日本大震災の教訓と知見から未来を拓く」
~永続的で広がりのある震災伝承を実現するために~

東日本大震災から 10 年、私たちは歴史的な災害で受けた大きな悲しみと悔しさを胸に、地域の再生に向けて懸命に歩みを続けてきました。
同時に確かめてきたのは、どんなに時が経とうとも、あの出来事を忘れない、災害による犠牲と人災の過ちを繰り返さないという思いです。
南海トラフ地震や首都直下地震などの大災害が間近に想定され、東北でも引き続き地震、津波、その他自然災害の発生が予想される中、3.11 の被災体験と記憶をどう生かし、伝え継いでいくのか。
新型コロナウイルスの流行という新たな災禍への対応も含めて、震災教訓を共有する使命は、ますます重みを増しています。
使命の途上で迎えた「10 年」を一段落の節目ではなく、この先の 50 年、100 年を見据えた「未来」を拓くための新たな出発点にする。
その決意と覚悟をあらためて確かめ合い、永続的で広がりのある震災伝承を実現させるため、以下のことをここに宣言します。

一、震災の教訓と反省を伝え継ぐことにより「災害で命が失われない社会」「被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会」の実現に貢献します
一、被災体験の有無をこえて教訓と知見を広く共有できるよう、改めて深く震災に向き合い直し、伝承に必要な企画と発信を充実させます
一、伝承に関わる人々、団体、施設が世代や地域を超えてつながり、発信を強化できるよう、ネットワークの輪を広げます
一、伝承すべき経験や教訓の全国、世界に向けた発信を強化するため、メディア、大学、自治体、企業等との連携を推進します
一、ネットワークや連携の力を生かしながら、伝承を担う人材の継承・発掘・育成など伝承活動の基盤強化を進めます

2021 年 3 月 23 日
3.11 メモリアルネットワーク

宣言文案

Ⅲ　震災伝承、防災・減災人材の育成

《講座》

・日本たばこ産業株式会社より会場の提供を受け、全 4 回の「3.11 伝承力アップ講座」を実施した。各回「マネジメント研修」「民間伝承活動事例研修」「ふりかえり」の 3 部構成、新型コロナウイルス感染流行下での移動自粛に伴い、オンライン参加も可とした。東北各地からのべ 77 名の方が参加し、活動のマネジメント課題や先進地域の経験に学ぶ機会を定期的に設けた。【JT NPO 応援プロジェクト】

第 1 回	2020 年 7 月 14 日	（1）「組織運営」を学ぶ（認定非営利活動法人日本 NPO センター 田尻佳史氏） （2）「広島土砂災害の伝承」に学ぶ（復興交流館モンドラゴン 松井憲氏）
第 2 回	2020 年 9 月 29 日	（1）「地域連携」を学ぶ（公益社団法人中越防災安全推進機構 山崎麻里子氏） （2）「新潟県中越地震の伝承」に学ぶ （おぢや震災ミュージアム そなえ館元館次長 松本勝男氏）
第 3 回	2020 年 11 月 17 日	（1）「企業側の支援の考え方」を学ぶ （日本たばこ産業株式会社サステナビリティマネジメント部 濱田尚様） （2）「水俣病の伝承」に学ぶ（一般財団法人水俣病センター相思社 永野三智氏）
第 4 回	2020 年 12 月 1 日	（1）「メディア」を学ぶ（宮城教育大学／元河北新報社防災教育室長 武田真一氏） （2）「阪神・淡路大震災の伝承」に学ぶ （阪神淡路大震災 1.17 のつどい 藤本真一氏）

マネジメント講座（2020/9/29）

伝承先進地の事例に学ぶ講座・意見交換（2020/9/29）

《3.11 メモリアルネットワーク基金へのご寄付募集》

・人材育成の資金的基盤として、3.11 メモリアルネットワークの目的に沿った活動を支える目的で設置された「3.11 メモリアルネットワーク基金」の寄付募集を行った。（寄付金は、公益社団法人 3.11 みらいサポートで管理され、有識者で構成される外部委員会の審査を経て、未来の命を守る東北各地の団体の伝承事業に対して助成される。）

・第 4 期は、「JT NPO 応援プロジェクト」1 年目で基金分担金としてご寄付いただいた中から、「3.11 メモリアルネットワーク（JT NPO 応援）基金　第 1 次助成事業」として、岩手・宮城・福島の 3 県で伝承に取り組む 13 団体へ、合計 9,916,000 円の助成が実施された。【JT NPO 応援プロジェクト】

・11 月 17 日（火）に JT 東北支社会議室にて「3.11 メモリアルネットワーク（JT NPO 応援）基金 中間報告会」を実施し、助成採択 8 団体 11 人から「伝承×○○」の形でテーマ別に報告が行われた。企業や学術分野の 16 名が Zoom で見学した。

・新型コロナウイルスの影響が広がり、会員からのヒアリングやアンケートの結果を受け、役員会で伝承活動全体への多大な影響への対応について議論を行い、「新型コロナウイルス緊急対策助成事業」を実施を呼びかけ、実現された。

・WEB サイトや Yahoo!JAPAN ネット募金ページで継続的に広報をしながら、企業や個人への個別の寄付のお願いを実施し、新たな寄付者の獲得に努め、2021 年 3 月末時点で、ご寄付総額は 48,019,432 円となった（内訳：指定寄付口座へのご寄付[マンスリーサポート含む]43,708,478 円、Yahoo!JAPAN ネット募金 4,240,123 円、Softbank つながる募金 70,831 円）。

・個人の方によるご寄付に加え、JT NPO 応援プロジェクトをはじめ、武田薬品工業株式会社、株式会社上門工業、株式会社ジュピターテレコム、真如苑、MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ等、企業から大口のご寄付をいただいた。

・Yahoo!JAPAN ネット募金でライオン株式会社とサントリー株式会社が、引き続きパートナー企業として「くじ付き募金」へ商品を提供していただいた。

Ⅳ　その他この会の目的を達成するために必要な事業

・メディアの取材対応、講演依頼への対応を通じて 3.11 メモリアルネットワークの活動の広報を行った。第 4 期は、「石巻かほく」での連載（6 回）や「東北活性化研究センター」機関誌の特集ページ等、新聞・雑誌から寄稿依頼を受け対応した。

・また、10 年が経過するのを前に、新聞社等からの問い合わせや語り部等の紹介依頼が例年より多く、都度対応した。震災伝承の全体的な動向や、個々の会員の伝承活動を広く知ってもらうことにつながった。

2020/4/9	河北新報	震災語り部や伝承施設見学の予約取り消し 9000 人超 収入減、活動継続に影響
2020/4/20	福島民報	震災伝承にも影響 富岡ツアーなど取り消し
2020/4/20	福島民友	震災語り部　継続危機 コロナの影響、キャンセル続々 富岡の NPO「つながりだけは」
2020/4/20	東奥日報	震災伝承にもコロナの影 語り部活動や学習 相次ぐキャンセル 来年 10 年の節目 関係者ら危機感
2020/4/20	愛媛新聞	震災伝承活動に影 相次ぐキャンセル 収入減で継続に危機感
2020/4/20	東京新聞(夕刊)	＜新型コロナ＞3.11 伝承ピンチ 語り部キャンセル続々 福島・富岡の団体、DVD 作成
2020/5/5	石巻かほく	震災伝承活動が危機 語り部ツアーや見学キャンセル、運営資金に打撃
2020/5/17	石巻かほく	伝承のみらい 3.11 メモリアルネットワークの挑戦(1)正念場
2020/5/17	毎日新聞	東日本大震災伝承、キャンセル 300 件「記憶の風化が心配」コロナで滞る活動
2020/5/18	日本経済新聞	震災伝承団体に助成へ 石巻の法人、上限 30 万円
2020/5/19	朝日新聞	コロナで語り部団体ピンチ 緊急助成
2020/5/24	毎日新聞	震災伝承、コロナで苦境 ツアーなどキャンセル 302 件 30 団体・個人アンケ
2020/5/24	石巻かほく	伝承のみらい 3.11 メモリアルネットワークの挑戦(2)連携
2020/5/31	石巻かほく	伝承のみらい 3.11 メモリアルネットワークの挑戦(3)広域
2020/6/1	河北新報(夕刊)	[ふみだす info] 震災伝承活動学ぼう 7 月から講座参加者募集
2020/6/7	石巻かほく	伝承のみらい 3.11 メモリアルネットワークの挑戦(4)共助
2020/6/8	東京新聞	3.11 から 10 年 教訓どう残す コロナ禍で作業中断・催し延期相次ぐ
2020/6/11	河北新報	震災伝承訪問予約 取り消し 2 万 5000 人に 震災 3 県の団体調査 5 月は計 58 人だけ
2020/6/14	石巻かほく	伝承のみらい 3.11 メモリアルネットワークの挑戦(5)目的
2020/6/21	石巻かほく	伝承のみらい 3.11 メモリアルネットワークの挑戦(6 完)次世代
2020/7/1	東北活性研 vol.40	東日本大震災被災地における民間伝承活動とネットワークの取り組み～震災 10 年以降を見据えた住民主体の活動継続のために～
2020/7/10	河北新報	次世代へ継承 不安 55% 伝えにくさは解消傾向
2020/7/14	NHK	震災語り部 組織のあり方考える
2020/7/15	河北新報	未来像描き伝承活動 語り部ら組織運営学ぶ 仙台で講座開催
2020/7/15	毎日新聞	震災語り部、組織作り学ぶ 持続的な伝承活動へ 仙台で講座開催
2020/8/25	河北新報	震災伝承 高 1 新戦力 3 人 七ヶ浜・向洋中卒業生の「きずなFプロジェクト」
2020/8/30	河北新報	コロナ下 伝承の課題探る 2 団体報告 連携を確認 みやぎ円卓会議
2020/9/28	河北新報	社説 コロナ下の震災伝承 風化防止へ支援の拡充急務

2020/9/30	河北新報	新潟中越地震から学ぶ 仙台で伝承講座
2020/10/10	NHK ラジオ	コロナ禍の震災伝承(前編)
2020/10/25	河北新報	震災・原発事故 伝承へ連携 31 日福島・富岡で初の交流会
2020/11/4	福島民友	県内の語り部、進む高齢化 伝承館では登録者の 8 割が 60～70 代
2020/11/15	CBC	東日本大震災から 10 年 語り部が体験を語る 教訓を受け継ぐシンポ
2020/11/16	中日新聞	「3・11」の教訓、次代に 名古屋で防災考えるシンポ
2020/11/16	読売新聞	震災体験談自らの備えに 名古屋でシンポ 『東日本』3 月で 10 年
2020/11/18	河北新報	コロナ禍 伝承も工夫 岩手、宮城の 7 団体報告
2020/11/23	河北新報	震災伝承活動「水俣」に学ぶ 仙台で講座
2020/12/7	中日新聞	＜備える＞特別編 防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」
2020/12/8	仙台放送	オンライン“語り部”に手ごたえ 被災3県現状報告
2020/12/9	河北新報	被災地に足運んで 岩手、宮城、福島の伝承団体、オンラインで企業に訴え
2020/12/12	産経新聞	【復興日本 序章 コロナと災害】(中)画面越しでも思いは伝わる
2020/12/25	仙台放送	「新型コロナで変わる震災伝承」東日本大震災の語り部ツアーが 5%まで激減 それでも…
2020/12/28	中日新聞	＜東日本大震災 10 年＞コロナでかすむ語り部 来訪者激減
2021/1/12	東京新聞	コロナ禍で震災体験をどう伝承していくか 各地で来訪者激少、オンラインで「リモート語り部」も
2021/2/4	石巻日日新聞	好文館高の星さんら いしのまき大賞に 1 個人 2 団体 3 月の商議所大会で表彰
2021/2/10	石巻かほく	石巻商議所「いしのまき大賞」受賞者決定
2021/2/11	福島民友	語り部「命の大切さを伝えたい」 震災や原発事故の教訓次代に
2021/2/22	時事通信	コロナ禍でも教訓伝える 震災伝承施設、270 超―語り部支援に課題・被災 3 県
2021/3/1	J:COM	震災アーカイブ「未来へつなぐ 語り部の声 ～岩手県陸前高田市編～」
2021/3/5	KYODO NEWS	Pandemic proving a challenge to those keeping quake stories alive
2021/3/6	石巻かほく	石巻商議所、2年ぶり会員大会 表彰通して連帯感
2021/3/8	河北新報(夕刊)	[ふみだす info] 震災の伝承方法模索 21 日、仙台でフォーラム
2021/3/9	@Living	東日本大震災からの復興へ、私たちができること
2021/3/10	J:COM	震災アーカイブ「未来へつなぐ 語り部の声 ～宮城県東松島市編～」
2021/3/12	サイエンスポータル	「あの時」から 10 年-「震災伝承」を広め、未来へ活動を続ける大切さを説く―武田真一氏
2021/3/13	朝日新聞	震災語り部の声、映像で未来へ J:COM、動画を制作し無料配信
2021/3/14	石巻かほく	仙台 21 日「震災フォーラム」 どう伝え継ぐか考える 三國さん(石巻)絵本を朗読

第 4 期　メディア掲載情報一覧